



「つながりの松」

今年、昇降口広場にある松に「つながりの松」という名前を付けることができました。12月18日には地域の方と6年生が参加して「松の木命名プレートお披露目式」を行いました。

この松は、明治時代から木造校舎の玄関横に植えられていたものです。その後校舎改築のときに移植され、今まで元気に生きています。

今年、地域の方から、この松のいわれや、背景について今の八幡小学校の子どもたちや保護者、地域の皆さんも知らない人が増えてきているの

ではないかとお話をいただきました。そこで、「JA 長野信連 50周年記念自然ふれあい教育振興基金」を利用して、この松の名前やいわれを記載したプレートを設置する計画を育成会長さん、PTA 会長さん中心に進めてきました。



名前については、現6年生から考えてもらうことになりました。アンケートを実施すると29もの名前が出てきましたが、その中から「つながりの松」と決めました。

・ずっと長い間八幡小学校の子どもたちとつながってきた松

・新しい令和の時代になり、これからも未来へつながっていく松

・この松を通して、いろいろな人とつながるんだと感じられる松

このような願いを込めての命名となりました。なお、プレートに記載された文章には他に候補となった「見まもり」「なかよし」「希望」「友情」「未来」などという言葉も入っています。

これからも八幡小学校だけでなく八幡地域の宝のひとつとして大切にしていきたいと思えます。学校に来られた際には、ぜひこの松とプレートをご覧ください。



6

八幡小の宝 つなかりの松

(令和元年度6年生42名が命名)

この松は、明治時代の木造校舎の玄関横に植えられていました。昔は、この松の前で卒業記念写真を撮ったそうです。八幡小学校の卒業生にとっては、とても思い出深い松です。

校舎改築(昭和54年～56年)の時、この場所に移されました。多くの人の努力があって、今も元気に生きています。

明治の時代から大正、昭和、平成そして令和まで、5つの時代を通して、八幡小学校の子どもたちをずっと見まもり続けてきたこの松。そして、これからも未来に向かって、みんなと仲良く希望・友情を育む松。

八幡小にとっても地域にとっても、とても大事な宝物です。

昭和54年の校舎改築の際にこの場所へ移された松

2学期を振り返って

2学期、4つのことをがんばっていきましょう！と呼びかけて取り組んできました。子どもたちはどんな成長をしたのでしょうか。また、今後の課題はどんなことでしょうか。まとめてみました。

重点	伸びてきたこと	課題
気持ちのよいあいさつ 「はい。」 丁寧な言葉	<ul style="list-style-type: none"> • 教室に入ってきたときに、元気にあいさつする子が増えた。 • 低学年であいさつができる子が多い。 • 朝、あいさつをする子が増えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> • 自分からのあいさつ。 • あいさつできる子とあまりできない子の個人差。 • 「はい。」の返事や丁寧な言葉遣いできない子が多い。
いじめのない学校 温かな言葉	<ul style="list-style-type: none"> • 友だちのよいところやがんばりに気が付いたり見つけたり、語ったりできる子が増えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> • 相手を傷つけるような言葉を発してしまうことがある。 • 「ありがとう。」を増やしたい。
授業 きまり・伝え合う・話す・聞く	<ul style="list-style-type: none"> • 伝え合う学習、話し合う学習ができてきている。 • 話して伝えることに慣れてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> • 常に対話的に高め合っていく。 • 相手意識を持って話す。 • 黙って聞く。
そうじ 無言・時間いっぱい・考えて	<ul style="list-style-type: none"> • 分担された仕事に取り組んでいる。 • 見つけそうじができる子、時間いっぱいやろうとする子、静かにそうじする子が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 無言でそうじすること。 • 考えること。 • そうじの仕方、基本ができていない子がいる。



課題については、3学期に気持ちを新たに取り組んでいきます。

早いもので、年が明けると令和2年です。今年、大変お世話になりました。令和2年も、よろしくお願いいたします。

事故や事件などに十分気を付け、安全で穏やかな年末年始休みを過ごしてください。また1月7日に元気に会いましょう。

